三菱ガス化学株式会社

2011 年 6 月 1 日

タイポリアセタール社の設備増強計画について

三菱ガス化学株式会社（本社：東京都千代田区、社長：酒井和夫、以下「MGC」）は、タイの製造子会社タイポリアセタール社（Thai Polyacetal Company, Ltd. 以下「TPAC」）で年産 4 万 5 千トンのポリアセタール（以下「POM」）生産設備の増強を決定しました。

新規設備により 4 万トン、現行設備のボトルネック解消により 5 千トンの能力増強を図り、現行能力 5 万 5 千トンと合わせて 10 万トン体制となります。今回の増強にあたっては、これまでの技術開発により得られた成果を積極的に導入することにより、TPAC は最新鋭で国際的に競争力のある生産拠点となります。今年中に着工し、完工は 2013 年 1Q、商業運転開始は同年 2Q の予定です。

POM は、機械強度、疲労特性、耐薬品性に優れた特性をもち、自動車、電気・電子分野の機構部品に使われております。いずれの用途も世界的に需要が好調で、今後年率 5～６％の需要の伸びが見込まれます。

１生産拠点での年産 10 万トンは世界最大級の規模となり、上海で建設中のポリカーボネートとともに合成樹脂事業のコアビジネスとして、今後とも積極的な海外展開を図ってまいります。

市場開発および販売は、三菱エンジニアリングプラスチックス株式会社（本社：東京都港区、社長：喜嶋安彦）を通じて行います。

【タイポリアセタール社 概要】

1995 年に設立した合弁会社。出資比率は、MGC が 70%、TOA Dovechem Industries Co., Ltd. が 30%。1997 年に年産 1 万 5 千トンで操業開始し、2000 年にデボトルにより年産 2 万トンに増強。2003 年に新設した年産 2 万 5 千トン設備は、2007 年のデボトルを経て年産 3 万 5 千トンとなり、両設備を合わせて年産 5 万 5 千トン体制となる。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

広報ＩＲ部　TEL：03-3283-5041